

(仮称)次期平塚市総合計画(2次素案)に対する答申 概要

日時	令和6年1月25日(木) 13時30分~14時00分
場所	平塚市役所 4階 第1応接室
出席者	平塚市総合計画審議会：大熊会長、湯川副会長 平塚市：市長、今井副市長、津田副市長
事務局	4名

平塚市総合計画審議会：大熊会長、湯川副会長より、(仮称)次期平塚市総合計画(2次素案)に対し、市長へ答申書が渡された。

【大熊会長】

総合計画審議会の審議の中で、市民委員から良い意見があがったり、また、コミュニティについての意見があがったりするなど、平塚市は良いまちであると感じた。ただ、平塚市が良いまちだからこそ、住んでいる市民にとっては、幸せが故にこのままでも良いように思ってしまう。今後、人口減少が進み、社会が変容していく中で、平塚市が暮らしやすい、生活しやすいまちとなるためには、人口減少問題の克服と地域経済の活性化と併せてDX・GXにしっかりと取り組み、変化していくことも必要である。

【湯川副会長】

総合計画審議会の委員で、都内からの移住者や、在宅勤務を行っている方がいたように、平塚市はコロナ危機を転入増加につなげることができた。また、平塚市は、公園が多く、その近くには保育所や幼稚園があるなど、子育てしやすいまちである。さらに、道が広く、都内へ向かう始発電車があるなど、暮らしやすいまちであるものの、その魅力を広く発信していく手立ては道半ば。今後、人口減少は不可避であることから、打てる手は機を逃さず積極的に打っていかねばならない。

【市長】

市北部の拠点・ツインシティ大神地区や、南部の拠点・平塚駅周辺地区では、まちの魅力を高める取組を進めている。近年、人口の転入超過が続いているとはいえ、子どもの数は着実に減っている。今後、人口減少に拍車が掛かる中、目指すべき方向をしっかりと見定めなければ、自治体も企業も生き残れない。行政としては、引き続き、持続可能な行政運営に努めていく。いただいた貴重な御意見を踏まえ、DX・GXにも積極的に取り組みながら、次期平塚市総合計画を着実に推進したい。



(左から湯川副会長、落合市長、大熊会長)